

(質問①)

研究会の立上げの「歴史的環境」のご説明と、最近のまちづくりでは災害とか、自然エネルギーとかあると思うのですが、関連があれば伺いたい。

⇒【栗原氏】

歴史的環境に関連して、まず、どうしても文化財には変なランキングがある。でもそこに収まらない、例えば、私の隣にあった古い建物が、まちの人たちと共に生き、この街の歴史を刻んできてくれたものだったりする。それは、もしかしたら国の重要指定文化財よりも、ここに住んでいる人たちにとっては、意味や価値があるかもしれない、と日頃思っています。そして、そういうものを「地域文化財」と呼んでいます。歴史的環境というものには、街並みもそうなのですが、暮らしている方々の、そこの暮らしぶりがあります。「ひと、もの、こと」それらを全て総称しています。その中で育ってきた暮らし方、生業を含めて、この地域の宝だろうということを伝えたいのです。

自然エネルギーや安全と連携して事業に取り組んできたものではありません。

今やろうとしていることは、知ってもらいたい、こういう特徴があって、これだけいいものがあるのだから、この辺りはもう少し良くしたいよね！というものを多くの市民が認識した時に、このまちはこういう風にしたいよね、というものが描けるはずなのです。まだそこまで至ってないですね。とにかく、知らない。知ることが大事で、小学生で(家を) 曳いた子が、大学で町を出た人たちが、少なくとも半分は戻って来て貰いたい。そして、本当の意味の市民になって貰いたい。そのためにはまずは知って貰う。知るきっかけを与えることで将来のこの街を支えてくれる市民になってくれるだろうということを期待しています。

それと併せて、子供の頃にやっていたことが、大人になった時に、原風景として誇れるものになってほしい。自分が子供の頃に、近所の駄菓子屋さんでお菓子を買った、その時のおばちゃんとのやり取りやお店の様子も含め、私の原風景になっています。今の子供たちの原風景って何だろう？と思うのです。コンビニがうちの子供たちの原風景なのかな？とか思う訳です。うちの娘が今、大学で秋田にっている。秋田市に4年程前にセブンイレブンが出来た。それまでセブンイレブンがなかったのです。そういうものがないことを、自慢と誇りに出来る街にしましょうよ、というのが私の根っこにある部分です。

(質問②)

伊勢崎は、建造物を中心に重なる歴史的な記憶のお話でしたが、変わりにくいのが自然景観で、比較的時間は緩慢でも変わりやすいのが都市景観ってなりがちです。そういう自然景観と都市景観の調和のようなものは、伊勢崎の場合には何か特徴的なものはあるのでしょうか？

⇒【栗原氏】

群馬県の真ん中に、赤城山があり、非常に裾野が長い。これが群馬県人にとっては大きな原風景の一つです。そこで、視点場を確保するという一方で、その自然景観を阻害しないようにするべきだと。そのために、高いビルとかビルの上に看板とか作ったりするとそれが自然景観を阻害するということで、視点場を阻害しないようにする。

最近、京都市は、ビルの屋外広告物撤去が始まっていますよね。観光都市ですので、看板撤去によって、京都らしい、東山など山々の景観を阻害しないような取組が進んでいますよね。伊勢崎でそういう特徴的なものという、山しかありません。また、都市景観で言うと、織物が盛んだったので、のこぎり屋根の織物工場がかつて沢山ありました。今はもう激減して、恐らく 10 棟ありません。これが都市景観としての我々の原風景でした。あとは、田舎ですので、集落、田んぼなどです。

すこし話が脱線しますが、事業というのは本当によく考えないといけません。例えば農地の土地改良事業で、田んぼの中で街路樹が植えられて、果たして必要なのかなとか、全国植樹祭が少し前に群馬であった時に、山の中に 1 万 5 千人が集まる会場が設置され、そこへの道に街路樹が植えてあり、すごく違和感を持ちました。整備は目的ではなく、あくまでも手段だという視点の下に、何が大事なのか、この街をこういう風にしたい、自然景観だったらこういう風に守りたい。そのためには今、私たちは何をしなければいけないのか。それを実現するためには色んな整備手法があるからうまく活かしていきましょう。そういうプロセスが踏めるといいですね。補助金はこれだけなので、これで何とかやりましょう、そういった流れを何とか変えられるといいなと思います。

(質問者③)

価値のある建物などは、写真や映像で残せば十分なのではないでしょうか。

⇒【栗原氏】

例えば、100 年経った建物は空間の持っている力というものがあります。明治の洋館、お医者さんの建物を移転するための調査で、建物の 2 階を調査事務所にして、見学したい人に、案内しますよ、と言う。そして知ってみると、非常に興味の度合いが高まって、何とかこれを使いたいよね、となります。長く時間が積み重ねたものに地域固有の文化が生まれてきますので、全部新しくすると、またそこに地域の気候風土に適したものに文化が生まれるには、何十年という時間が必要です。色んな人の時間が注がれて初めて、地域共有の財産になり得るのです。既にあるものを全てクリアランスするのではなくて、残せるものは残して、あそこで皆、お医者さんに診て貰ったよね、かつて保健所で使ったよねと、みんなが共有の言語で語れるものを残してあげることが、実はまちづくりをしていく上で、価値観を共有できる。価値観の共有のために古いものを生かしておくことは、すごく有効な手段です。そういう、私の経験の中でも、涙もそうだし、みんなで盛り上げていくのは、そこに 100 年近い時間が注がれているからできることがあるのです。それが私の考え方です。